

東アジアジュニアワークショップ 2013 感想

船越 康希 京都大学

1. フィールドワークに関して

京都の豊富な観光地を用いて、天皇制の歴史や京都の歴史を伝えることができた点が良かった。また崇仁地区や洛東園、原発セッションを通じて、京都の暗い部分や日本の介護や原発の課題を伝えることもできたように思う。質問も多く出てきて、ソウル大学・台湾大学の学生はみな熱心に聞いてくれたのでとても充実していたと言える。ただ改善としては、一日目に御所で行ったようなフィードバックを各観光地で十分にできなかったことだろう。皆で議論する時間もあれば良かった。

2. ワークショップに関して

私個人のプレゼンに関しては、完璧とはとても言えなかった。英語も拙く、ところどころ詰まってしまった。しかしそれでもみんな関心を持ってくれて良かった。ただ質問に対応しきれなかったのは悔しい。もっと英語の勉強と自身の研究の精度を高める必要があると感じた。

ワークショップ全体に関しては、テーマ別に各回4人程度にまとめていたことが良かった。適度に休憩を入れながら聞くことができたと思う。ただ、フィールドワーク同様、各回に興味を持った内容について議論をする機会があればなお良かっただろう。(ペイチュンも言っていたと思うが。)

3. 受け入れなど準備に関して

特に言うことはない。候補地も5月・6月におおよそ決めていたので良かった。(洛東園はすこし遅かったが...)スケジュールに関しても、生徒の人数はなかなか把握できない中、迅速に決定できたであろう。

4. Farewell Party に関して

すいませんでした。もっと節度ある人間になります。